

## 混声合唱の喜び

音楽 第3学年

白山市立北星中学校

### 1 事例の概要

本校では昨年度まで生徒の「生きる力」を育むことを研究の支柱としてきたが、今年度は昨年度の学校評価をうけて学力向上に向け、副題を「活用力を高める授業の研究」とした。そこで音楽科において、生徒自身が自ら感じたことをもとにして、主体的に考え、工夫をしながら音楽づくりをしていく活動の中で、活用力を高めることができるのではないかと考えた。本題材では、生徒自身が合唱を創りあげていく過程で、思考する場面や判断する場面と表現する場面を意図的に設定することで、より積極的な合唱活動に繋がり、互いに向上しようとする力がつくと考えた。また11月に行われる文化発表会という学校行事の中で生かされるという点において、生徒の学習意欲も喚起されるものと考え、本題材を設定した。以下はその試みの一部である。

#### A-1 学校研究

### 2 実践内容

#### (1) 題材の目標

- ・歌詞の内容と声部の役割及び楽曲構成のかかわりに関心をもち、意欲的に合唱活動に取り組むことができる。
- ・歌詞の内容や曲想を感じ取り、声部の役割や楽曲構成を生かして、全体の響きに調和した合唱表現を工夫することができる。
- ・声部の役割や楽曲構成を理解して、全体の響きに調和させて合唱することができる。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 練習形態の工夫

- ・パート練習（自分のパートの音取り）、小グループ練習（他のパートとの響きの確認）、全体練習（全体の響きの調和）とそれぞれ目的に応じた3つの練習形態を編成した。

##### ② 練習方法の工夫

- ・各声部の歌唱CDとピアノ伴奏のCDの他に、複数の声部を重ねた歌唱CDの3種類のCDを準備し、それらの中から適切なCDを生徒が選択しながら、自己の声部と全体の響きの調和を図りながら、合唱表現を工夫できるようにした。

##### ③ 基礎・基本の定着

- ・自分のパートの楽譜の部分を蛍光ペンでなぞらせ、音の上がり下がりを目で確認させた。
- ・一人一人の生徒の音域をパート分けのために事前に調査し、声域の狭い生徒についてはオクターブ下げて歌う等指示することで、変声期の生徒に配慮し、歌唱への抵抗感を和らげた。

##### ④ 活用力の育成

- ・パート練習の際に、自分の歌唱について、うまく歌えた部分とそうでない部分を把握・分析し、次時への課題を意識することができる。（思考力）
- ・グループ練習の際に、自分たちの合唱を生徒相互に聴き合いながら、問題点やよりよくなる方法を出し合い、適切な練習方法を取り入れ、改善に努めることができる。（思考力・判断力）
- ・グループ練習の発表の際に、自分たちが取り組んできた練習を具体的に述べて、歌唱の発表の視点を明確にすることができる。（表現力）

#### B-1 単元計画・評価計画

#### B-2 指導法の工夫

### 3 指導の実際

学習活動(・)と予想される生徒の反応(○)	指導と評価方法 (※B→Cへの支援、☆活用力)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小グループの確認をする               <ul style="list-style-type: none"> <li>○うまく歌えるか心配だ                   <ul style="list-style-type: none"> <li>①音程がわからない</li> <li>②音程の取れない場所がある</li> <li>③声が小さくなる</li> </ul> </li> <li>◇恥ずかしい</li> </ul> </li> <li>・小グループでの、合唱活動を行う               <ul style="list-style-type: none"> <li>○ピアノ伴奏のCDで練習する</li> <li>○パートの声が入ったCDで練習する</li> <li>○電気ピアノで音取りをする</li> <li>○パート間の距離を变化する</li> <li>○先生を呼んで一緒に歌う</li> </ul> </li> <li>・パートリーダーを中心に相談しながら、合唱活動を行う</li> <li>・伴奏係が電気ピアノで音程の不安定な部分を取り出して模奏する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく歌えない場合の練習方法を例示する               <ul style="list-style-type: none"> <li>①自分のパートの声が入っているCDで練習する</li> <li>②電気ピアノを弾いて音を確認する</li> <li>③声パート間の距離を空けて練習する</li> </ul> </li> <li>◇横で教師と一緒に歌うので、挙手等で連絡する</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>☆グループ練習の際に、自分たちの合唱を相互に聴き合いながら、問題点やよりよくなる方法を出し合い、適切な練習方法を取り入れ、改善に努めることができる(思考力・判断力)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>評価規準</p> <p>・各声部の役割を生かして、全体の響きに調和した合唱表現を工夫している</p> <p>&lt;評価方法&gt; 観察</p> </div> <p>※他の声部につられてしまう生徒には、音程の安定している生徒の隣や前で歌わせるよう並び方を工夫し、全体の響きを感じ取りながら歌えるよう指導する</p>

#### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

##### ① 主体的な学習活動

練習形態や練習方法を生徒の気付きや相互評価を生かしながら試行錯誤させていくことによって、自ら課題を解決しようとする意欲の高まりと主体的に授業にかかわる能動的な態度が多く見られるようになった。

##### ② 個人の高まり

小グループ練習の導入により、一人一人がしっかり歌うようになり、また小グループの発表のため、協力しながら合唱に取り組む活動の様子が見られた。さらに、発表を聴く視点を聴き手が知ること、その工夫のよさを聴こうする能動的な聴き方をするようになった。また、感想についても観点が絞られた評価カードが見られるようになった。

#### (2) 課題

##### ① 音楽リーダーの育成

小グループの練習では、生徒に任せる部分が多いので、グループリーダーや構成メンバーによって練習の質が変わってくる。第1、2学年の学習活動を通して、「音楽活動の基礎的な能力」を生徒に身に付けさせ、その能力を生かし主体的に学習活動を行うことができるリーダーを育成しておくことが大切である。

##### ② 計画的な活用力の育成

音楽科の授業における合唱活動においても、既習の学びを本時の学習等に生かしていけるような学習指導計画の工夫が大切である。また活用力の育成という面で、それぞれの題材で育みたい「音楽活動の基礎的な能力」を明確にし、既習によって身に付けた「表現の技能」との関連を図りながら、活用力育成につながる系統的な学習指導計画の作成が重要である。